

この研修を通して見えてきた島の現状 —教育、環境、生活—

島田温史（農学研究科）

今回の研修では、最初に訪れたグアムではグアムや周辺諸国（ミクロネシア連邦など）における教育の問題点と日本との違い、ミクロネシア連邦チューク州ではミクロネシアで抱えている問題、生活、日本との関係、植生など、特にピス島では現地の生活、といった日本では学べないこと、体験できないことを多く得ることができた。それぞれで得たものについて少し述べたいと思う。

最初に訪れたグアムでは、グアム大学で教育に関する講義を受けることができた。グアムや周辺諸国（ミクロネシア連邦など）における教育の問題点と日本との違いについて学んだ。教育における問題点としては、①大学教員の定年が無いことによる高齢化と指導のマンネリ化、②教員になるための免許や試験がないことや、教員以外に就職先のない人が教員になることによる教育の質の低下、③他の州で教員になることのできることによる教員不足、などが挙げられる。また、グアムでは先住民であるチャモロ人の教員の割合が多く、グアム大学では重役にチャモロ人が多く選ばれるため、チャモロ人以外の方が差別を受けることがある。日本では免許、試験なしで教員になることはできないので免許なしで教員になれることは大変驚いた。

日本との教育の違いとしては、①日本では中学校まで授業料が無料だが（一部高校まで）、ミクロネシアでは高校まで無料、②日本では使用する教科書を国が決めているが、グアムではカリフォルニア州の教育課程を採用し、各学校が教科書を自由に選んでよい、③授業では講義後にディスカッションやプレゼンをさせることが多く、日本のように教員からの単方向ではなく教員と学生との双方向の授業になっていた、点を挙げられる。



グアム大学での講義



CWC での記念撮影

ミクロネシア連邦チューク州ではミクロネシアで抱えている問題や生活、日本との関係、植生などについて学ぶことができた。抱えている問題としては大きく分けると二つあった。まず一つ目は HIV などの感染症の問題である。チューク州では HIV、AIDs、STD などの患者が多く存在する。保健局や病院、CWC と呼ばれる女性団体などが協力し合い検査、予防やさまざまな検診を行

っているが、援助交際や商売、宗教上の問題などにより中々解決には至っていなかった。もう一つの問題がゴミの問題である。ゴミ問題は島特有の問題であり、実際現地を見て回ったときゴミが至る所に見られた。対策としてゴミ収集車や高床式のゴミ入れの設置、日本の技術によるゴミ処理、埋め立てなどを行っている。生活としてはスーパーで売られているもののほとんどが輸入物で特に缶詰が多く料理にもよく使われている。また90%以上の人々がキリスト教であるためミーティングの前にお祈りを行う習慣がある。

日本との関係として大戦時日本が統治していたため、チュークの人々は日本人との混血が多く、名前にアイザワやヤマモトといった日本特有の名前が残っている。またチューク語中には日本語が多く残っている。ウエノ島、トノアス島といった日本軍の拠点となった島々は春島、夏島などと呼ばれていた。トノアス島では日本統治時代、日本人が島民の80%いたため統治時代の建物などが多く残っていた。



日本軍病院跡



島の植生

植生としては熱帯雨林、マングローブが主体となっていた。果樹類は熱帯果樹が主体で、バナナやレンブ、ココヤシ、マンゴー、パンノキ、パパイヤ、カンキツ類などが自生していた。特にココヤシ、バナナ、パンノキ、パパイヤは特に多く様々な場所で見ることができた。マンゴーやレンブ、カンキツ類などは道路沿いや民家近くに見られた。バナナは日本でよく食べられるフィリピンバナナとは異なり、少し酸味のあるものが多かった。ココヤシは果実が緑、茶色、黄色と完熟時の色が異なるものが見られた。パンノキは葉の切れ込みの異なるものが数品種見られた。パンノキは主食として食べられ、栗とサツマイモの間のような食感と味であった。マンゴーは現地で‘万歳プラント’と呼ばれ日本統治時代に植えられた。1年に2回開花、収穫を行っている。カンキツ類は現地で‘ナイミス’、‘クルクール’と呼ばれナイミスはライム系統、クルクールはダイダイ系統である。作物はサトイモやキャッサバ、ヤマノイモ類、サツマイモといった芋類が主体である。野菜類としてはトウガラシやナス、キュウリ、トウガン、カボチャ、スイカなどがあつた。特にサトイモ科作物はサトイモやアメリカサトイモ、ジャイアントスワンプタロ、クワズイモなど数種類見られた。

ピス島では現地の生活を体験学習することができた。ピス島には風呂、シャワーは無く井戸水を汲んで水浴びをするのみで、電気もガソリンで動くジェネレーターがあるだけであつた。そのためジェネレーターが切れてしまった場合、暗闇の中行動せざる

ざる

るを得なくなる。主食は米、パンノキが主体である。スープの代わりとしてラーメンが食べられている。おかずとしては魚介類が主体で揚げ物が多い傾向にあった。また、多くの料理にココヤシの果実を使用している。植生はウエノ、トノアス島と同様にパンノキ、バナナ、ココヤシは島の至る所で見られた。マンゴーやレンブ、カンキツ類も見られた。マンゴーは開花せず果実をつけず、カンキツ類は家の敷地に1本は植えられていた。

この研修を通して他の国の教育の現状、南国の生活や植生、電気・ガス・水道のない島での生活など普段日本に在るだけでは絶対に体験できない、学ぶことができないことを経験することができて非常に楽しかった。特にミクロネシアでは人々が温かくどこか日本に似ているところがあり、初めての海外だったが気分的に楽に過ごせた。また、ピス島では島の人々と多く触れ合い、一緒に漁をしたり、トランプをしたり、子供たちと海で遊んだりと大変楽しかった。今後はこの研修を通して経験し得たことを生かし実りある生活を過ごしていきたいと思う。



ピス島の人達との記念撮影